

「関東通信輸送株式会社 東関東物流センター」



神経を研ぎ澄まし 安全を積み重ねて 信頼を築く電柱輸送

関東圏内で、電柱や電線などの輸送を担う、関東通信輸送株式会社さまの東関東物流センター。長尺かつ重量物ゆえに、輸送や積み降ろしに危険が伴う業務には、この上なく高いスキルと徹底した安全意識が求められる。無事故無違反を貫き、平均年齢35・8歳の若い乗務員さんたちを引っ張る川上光弘氏の仕事に取り組み心構えを通して、リーダーとしてのあべき姿に迫った。

関東通信輸送株式会社
乗務員 チームリーダー

川上光弘氏

長さ16m、重さ2.3tの
電柱を輸送する
揺るぎない責任感

産業や生活のインフラとしての役割を果たす電柱は、厳しい日常の環境条件下で、コンクリートがひび割れたり劣化したりする前に、新しいものへと交換される。その新しい電柱を設置現場に輸送したり、役目を終えて産業廃棄物となった電柱などを集荷し輸送する、重要な役割を担うのが、川上氏をはじめとする12名の乗務員さんたちである。

所長の金子壽夫氏の言葉から、電柱輸送の難しさが伝わってくる。「産業廃棄物の集荷から荷積み、輸送、荷降ろしまで、すべての作業を乗務員がおこないます。コンクリートの電柱は短いものでも8m、長いものだと16mにも達し、重さは2.3t近くあります。12mを超えるものについては、国土交通省から特殊車両通行許可、および警察から制限外許可を受けて輸送しています。

これをクレーンで吊りあげて、トラックに積載・固定し、弊社のリサイクルセンターへ運び込むのです。わずかなミスが大きな事

1日1日の仕事をきちんと完遂して、今日も無事に家に帰る。
これに勝る目標はありません。

**確かな仕事に裏打ち
された信頼関係が
人望へと実を結ぶ**

川上氏はチームリーダーとして、小集団活動などにおいても常にまとめ役となる存在だ。
金子氏が説明する。

「乗務員の休憩室でも、その中心にいるのが川上で、若手がさまざまなことを聞いてくるのです。初めて行く現場のこと、車両のこと、クレーンの操作方法など、話題は尽きないようです。人柄もさることながら、信頼の軸となっているのは、きちんとした確かな仕事、これに尽きるところだと思います。荷主企業の方々も



故につながる危険性がありますから、皆が心をついにし、安全運行の意識や体調管理を徹底して業務に臨んでいます」

日々、ハンドルを握る川上氏が語る。

「あらゆることに気を配らなければ、電柱を積載して走らせることはできません。トラックの前後に大きくはみ出した電柱が、他の車両に接触しないように常に車間距離を取り、右左折時には信号や看板に注意しながら、慎重なハンドル操作をおこなうこともポイントです。また、電柱を積んだトラックは重心が高くなっていますから、カーブでは遠心力がかかってくることも考慮しなければなりません。わずかな挙動も察知できるように全身の神経を集中させながら、バックミラー、バックモニターを含めて、前後左右、あらゆる視覚情報をチェックするのです」

川上氏の言葉に、安全とは卓越したスキルと、意識の高さの産物であることをあらためて思い知る。無事故無違反を貫くその姿勢は、会社から最優秀ドライバーとしてMVD賞 (Most Valuable Driver) の表彰を受けるに至っても、決して気を緩めることなく、さらなる高みに向かっているようだ。

同じように感じていらっしゃるのではないのでしょうか」

荷主企業から信頼を得ることが大切と考えるのは、川上氏も同じだ。その理由をこう説明する。

「産業廃棄物の電柱を輸送する一方で、新品の電柱を輸送することも私たちの業務です。その場合は初めて行く場所が多いので、事前に納品先のご担当者、現場の状況を電話で確認させていただいたり、狭い道でバックが必要な場合は、誘導をお願いしたりすることもあります。確実な仕事はもちろん、丁寧なあいさつや言葉づかいを通して、いい人間関係が築けていけば、気持ちよくサポートしていただけます。結局

**周囲への安全を確保し
自らの手足のように
クレーンを駆使する
荷役作業**

電柱の輸送をおこなうためには、クレーン作業のスキルも不可欠だ。この業務で長年の実績を誇る関東通信輸送社では、作業マニュアルを作成し遵守している。

川上氏が説明する。

「リモコンを使ってクレーンを作し、電柱を移動させます。吊りあげるときに重要になってくるのが電柱の中心部を見極めることです。電柱の中心には赤い印が付いており、新品ならばその印に合わせていいのですが、廃棄電柱の場合は土が付いていたり、コンクリートが風化して中心部が変化していたりします。そのため、1本ずつ重心を見極めながら吊りあげていくのです」

万が一中心を外すと、空中で電柱が揺れてしまうのだという。川上氏の正確なクレーン作業により、電



柱が1本ずつ地面へと降ろされていく。そのカン・コツについて聞いてみた。

「ものを吊りあげると、揺れが発生します。その揺れを放っておくと、揺れが大きくなり、電柱がぐるぐると回転を始めます。ですから、横の揺れも縦の揺れも発生させないように、クレーンの動きを微調整しながら移動させるのです」

安全を支える作業には、知られざる工夫と配慮がある。社内で活発におこなっている小集団活動では、こうした業務改善の発表会の場を設け、川上氏がリーダーを務めるチームは優秀賞を受賞したという。「輸送にしても、積み降ろしにしても、川上のようなお手本がいると、乗務員全員の安全意識も自然と高まります。ですから事故もなく、私も安心していられます」

そう語る金子氏の言葉が、安全を何よりも大切にする関東通信輸送さまの気風を象徴している。



関東通信輸送株式会社
東関東物流センター
所長
金子壽夫 氏



Corporate Profile

関東通信輸送株式会社 東関東物流センター

- 所在地:茨城県牛久市福田町向原2012-264
- 従業員数: 20名(内 乗務員12名)
- 車両台数: 12台(キャブバッククレーン付車)
- 主な業務: 一般貨物自動車運送事業、第1種貨物利用運送事業、産業廃棄物収集運搬事業